（第３号様式）

会　議　要　旨

会議名	令和６年度第１回館山市行財政改革委員会
開催日	令和６年 12 月 17 日（火）10：00～12：08
開催場所	館山市役所 本館２階会議室
出席者	館山市行財政改革委員会委員　７名（うち２名がリモート参加） 館山市長、副市長、総務部長、行革財政課（課長ほか３名）
公開・非公開の別	公開
非公開の場合の理由	
傍聴者	０名
会議概要・結果等	**１　開会** **２　委嘱状交付** **３　市長挨拶** **４　委員長及び副委員長の選出** 委員互選により、次のとおり決定した。 委員長：伊藤伸委員 副委員長：児玉秀一委員 **５　情報提供** **（１）令和５年度館山市決算概要について** 事務局より、資料をもとに説明した。 【説明概要】 ・歳入決算額は約 269.4 億円、歳出決算額は約 261 億円 ・実質収支額は約 7.5 億円 ・歳出決算額は、対前年度差で約 33.8 億円の増 ・市債残高（市の借入金）は、対前年度差で約 25.3 億円の増 ・基金残高（市の貯金）は、対前年度差で約 9.3 億円の減 ・財政調整基金残高は 21.9 億円 ・経常収支比率は、対前年度マイナス 0.2 ポイントの減で 94.7％ 【情報提供（１）に対する主な委員意見等】 （●：委員意見等　⇒：市説明等） ●第４次館山市行財政改革方針では、令和９年度に財政調整基金残高が枯渇する推計に対し、できる限り基金を積み上げていくという目標を掲げている。令和５年度決算や今年度の状況を踏まえ、事務局としてはどのように評価しているか？ ⇒人件費や物価の上昇幅に対し、市民税の増加が追いついておらず、方針策定時の推計よりも財政調整基金残高が減少する可能性がある。 ●財政調整基金が減少する要因は、館山中学校の建設などの一時的な財政

	需要によるものなのか？ ⇒館山中学校の建設が終わっても財政調整基金残高は好転しない。約 300 ある事務事業の選択と集中をしていかなければ、状況を打開することはできないと考えている。 ●予算の範囲内でやり繰りするしかなく、その中で削られていくものが絶対に出てくるはずである。市民がわからないままサービスが削られ、気が付いたらすごく住みにくくなっていたということがないようにしていただきたい。 ⇒市民生活に大きな影響を及ぼすものを廃止する際には説明しなければならないと考えている。 **（２）第４次館山市行財政改革方針令和５年度取組実績について** 事務局より、資料をもとに説明した。 【説明概要】 ・第４次館山市行財政改革方針の１年目である令和５年度の取組項目の達成率について、全 102 項目のうち目標値の 75%以上を達成した項目は 82 項目であった。 ・１年目の取組実績としては概ね順調に進捗しているが、一方で達成率 50%未満の取組が全体の１割程度あることや、令和６年度において財政調整基金を大きく切り崩すことなど、楽観視できない状況であると認識している。 【情報提供（２）に対する主な委員意見等】 （●：委員意見等　⇒：市説明等） ●数値で確認できない項目の達成率をどのように出したのか？ ⇒数値で確認できない項目は、計画期間の途中から取り組むため、令和５年度は実績がないもの、そもそも数値化できないものなどがある。どちらも、進捗状況を報告させ、把握はしている。 なお、方針に掲げる 78 の取組項目は、行財政改革委員会からの「削減することが目的ではない」という答申を踏まえ決定しており、数値に置き換えられるものとそうでないものが存在している。 ●取組項目の進捗が、行革方針の目標達成に繋がっていないように思うが、その点をどのように考えているか？ ⇒事務事業の改善は図られたが、経費への波及にまで及んでいないものがあると考える。 ●最終目標を達成しない可能性がある場合は、項目の目標設定を変えることや、新たに項目を追加することも必要になってくると思われる。 ⇒社会情勢や取組の進捗状況によっては、見直しを検討する必要があると考えている。 ●削減だけでなく、歳入増にも注力すべき。 ●職員一人ひとりが現状を共通認識にして行動すべきである。 ●本委員会に事業課も入り、問題意識を共有してみてはどうか。 ●職員だけでなく、市民の力も必要である。 ●時間は限りあるものであるため、何かをやめることによって生まれる時間に着目して議論するのもよいのではないか。

	（３）令和６年度館山市事業仕分けの評価結果等について 事務局より、資料をもとに説明した。 【説明概要】 ・評価結果や評価に対してのコメントを踏まえ、事業仕分けの対象になった各事業の今後の方針を決定し、改善を進めている。 【情報提供（３）に対する主な委員意見等】 （●：委員意見等　⇒：市説明等） ●事業仕分けを傍聴し、市民判定人の評価結果がプレゼンの質に左右されるような印象を受けた。事業仕分けの結果が行財政改革に直結するとよい。 ●事業仕分け実施後の庁内の反応はどうか？ ⇒当日参加した職員に対するアンケートでは、今後自身の業務の改善が図れるかという問いに対して、６割以上が「とてもそう思う」「そう思う」と回答した一方で、事業仕分けを今後も継続すべきかについては、「そう思う」が約２割、「どちらとも言えない」が約６割、「そう思わない」が約１割だった。 ●他の自治体の事業仕分けに関わることがあるが、他の自治体の職員アンケートでは、一概には言えないが、半数以上の職員が来年度も継続した方がよいと回答している。職員の満足度を上げることが今後の課題になると思う。 **６　協議事項** **館山市行財政改革委員会運営要領の一部改正について** 事務局より、資料をもとに改正案を説明した。 【概要】 ・専門的な知見を有する外部人材に助言を求めることができるように要領を改正する。 【協議事項に対する主な委員意見等】 特になし 【採決結果】 全会一致をもって原案通り可決 **７　その他** **（１）事業仕分けに関する令和６年第３回市議会の動向について** 事務局より、資料をもとに説明した。 【説明概要】 ・令和６年第３回館山市議会において、事業仕分けに関する質問、意見が多く挙がった。 ・令和５年度事業仕分けの結果を踏まえ整理・統合した事業に対し、市議会に請願書が提出された。 【その他事項（１）に対する主な委員意見等】 （●：委員意見等　⇒：市説明等）

	●庁内における事業仕分けすべきという熱い思いと、行革に対しての理解、ふさわしい事業の選定なくしてはうまくいかないと感じた。 ●改革は賛否あるもので、丁寧に伝えることが必要である。 （２）今後の事業仕分けに関する市長発言 令和７年度当初予算編成において、現在極めて厳しい査定を行っており、事業仕分けを来年度継続することについて理解を得難く、モチベーションの低下なども懸念される。来年度は事業仕分けで対象になった事務事業の改善を鋭意進めるとともに、二度の事業仕分けの実施で培った知見を事業仕分けの対象事業以外の事業にも活用するなど取り組んでいく。よって、令和７年度の事業仕分けの予算計上はひとまず見送った。 【その他事項（２）に対する主な委員意見等】 特になし ８　閉会